



平成 21 年 11 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
(JASDAQ・コード番号：2776)
代表者名 代表取締役社長 茂木眞一
問合せ先 取締役副社長 中川純夫
電 話 03-5637-0505

平成 22 年 1 月期 通期業績予想(非連結)の修正に関するお知らせ

当社は最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 8 月 26 日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 1 月期通期業績予想(非連結)(平成 21 年 2 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,982	283	183	83
今回修正予想 (B)	7,645	△500	△535	△490
増減額 (B-A)	△1,337	△783	△718	△573
増減率	△14.8	—	—	—
(ご参考)				
前期実績(平成 21 年 1 月期)	11,103	387	381	124

2. 業績予想の修正理由

当事業年度は、昨年秋から続いております金融危機の影響により、厳しい経済環境のなかでの推移となっております。当社が参画しておりますカジュアルウェア市場におきましても、生活防衛意識や節約志向が引き続き高い状況下であり、個人消費意欲の減退が一層顕著となっております。

このような厳しい状況のなか、主軸事業であります卸売事業を中心に、主力ブランドであります「RUSS-K」(ラスケー)ブランドを全社キャンペーンとし、小売事業、ライセンス事業も含め積極的な販売活動に努めました。

卸売事業においては、シーズン毎の初回商品投入に関しては当初予想通り推移したものの、実需要期における商品の追加フォローの受注が予測を下回りました。また市場における消費マインドの冷え込みと低価格志向の強まりによるプロパー(正規品)販売率が低下したことにより、販売単価が下落しました。また、天候不順などによる需給のギャップなどマーケットニーズを捉えることに苦戦いたしております。以上の結果、卸売事業については前回売上高予想比 18.9%の減少となる見通しであります。

小売事業につきましても、市場の低価格志向の強まりから第 2 四半期に引き続きセール販売を強化いたしました。既存店舗における買い上げ客数は概ね予想値に近い実績で推移しましたが、セール販売による販売単価の下落が影響し、結果買い上げ客単価が予想を下

回り、小売事業における前回売上高予想比は4.7%の減少となる見通しであります。

ライセンス事業に関しましては、新規取引先の拡大を目的に新ブランドの展開を開始しました。当初予想では、第3四半期末より新ブランドの展開を予定しておりましたが、契約条件面などにおいて新規口座開設に時間を要し、効果が具体化するのが本年度末ならびに来期以降になる見通しとなりました。以上の結果、ライセンス事業については前回売上高予想比は5.5%の減少となる見通しであります。

以上のとおり当社の売上高につきましては前回予想の8,982百万円から14.8%減少し、7,645百万円となる見通しであります。

利益面につきましては、卸売事業のプロパー(正規品)販売の低下及び小売事業のセール販売により、プロパー(正規品)販売率が低下したことから販売単価も下落し、売上総利益も減少する見通しとなりました。一方、販売費及び一般管理費につきましては、不採算店舗の閉鎖や本社機能の集約などにより、地代家賃、人件費をはじめとする諸経費を削減するなど圧縮に努め、当初予想を下回る見通しとなり予想比から1.7%減少となりました。

しかしながら、売上高及び売上総利益の減少を、販売費及び一般管理費の削減ではカバーすることができず、結果、営業利益は前回予想から783百万円減少し500百万円の営業損失、経常利益は前回予想から718百万円減少し535百万円の経常損失、当期純利益は573百万円減少し490百万円の当期純損失となり前回予想を下回る見通しであります。

以上